

家庭数



よこどつ子

千葉市立横戸小学校
〒262-0001
千葉市花見川区横戸町 1005
TEL043-259-5588
学校だより第5号
令和7年9月3日(水)



子どもを支えるガードレールに 校長

今年の記録的な猛暑は夏休みが明けても続いています。暑さの中、子どもたちの声が学校に戻ってきました。9月1日にはいつも以上に張り切って登校する子どもの姿が見られました。特に6年生はいつもよりずっと早く全員が登校し、最高学年の自覚が感じられました。夏休み前、子どもたちには、夏はいろいろなことを「やってみる」ことができるチャンスだという話をしましたが、休み明け初日には、各クラスで夏休みにやったことや、頑張って取り組んだ自由研究について自分の言葉で生き生きと伝える姿が見られました。

ところで「先生たちは夏休み、何やっているの」と疑問に思う子どももいるようです。子どもがいないのだから仕事もないのではと思う人もいるかもしれません、実は授業がない期間だからできることがあります。例えばこれから時期、子どもたちが楽しみにしている行事が多くあります。校外に出たり、外部の方を招いたりしての活動もありますが、事前に下見をし、それを元にじっくりと企画を練るのに夏休み期間は貴重です。各学年一学級の本校では各担任がいくつもの学年行事を企画運営するので、安全な実施に向け、時間も必要です。

もう一つは、様々な研修を受けることです。教科など、授業に直結する研修もあれば、視野を広げるための研修もあります。教員以外の仕事を体験したり、様々な職種の方の話を聞きしたりすることもあり、学校と社会をつなぐ上で欠かせません。

この夏、元スピードスケート代表選手の高木菜那さんの講演を聞く機会がありました。小学2年生からスケートを始めた菜那さんは、先にオリンピック出場を果たした妹の美帆さんの姿を見て、自分もオリンピックを目指したそうです。夢が叶い、ソチ五輪で代表に選出され、平昌五輪では女子団体パシュートなど二冠に輝いたものの、集大成となる2022年の北京五輪では涙の銀メダルと、金には届きませんでした。そんな山あり谷ありの経験を経た今、「七転び八起～いま私が伝えたいこと～」をテーマに、挑戦することの大切さを私たち教員に話してくださいました。「努力と結果は比例しない、でも努力は絶対自分の身になる」「自分自身で変えられるところに目を向けられること、『他人や環境でなく自分』など、軽快な語り口で、説得力のあるお話をされていました。その中でも心に残ったのは、「先生や親は、子どもにレールを敷くのではなく、ガードレールになってほしい。」というメッセージでした。子どもがはみ出さないようにと大人がレールを用意してしまうのではなく、子どもが自ら考え、自分で進むことを大切にしながら、見守り、支える存在であってほしいということです。それは高木家の教育方針でもあったそうで、お兄様が小学生の時、パジャマで学校に出かけるのをお母様は笑顔で見送ったエピソードを紹介していました。忘れ物をしても絶対に届けることはなかったそうです。パジャマで学校に行けば笑われる、忘れ物をすれば自分が困るという体験を通して、自ら学び取ることを願ってのことでした。それが、思い通りにいかなくとも挫折することなく、経験を自分の力に変えることができる、芯の強い菜那さんを育てたのだと感じました。

菜那さんのメッセージをしっかりと心にとめ、レールを敷いてしまうことなく、子どもの力を信じ、支えていこうと思いを新たにした夏でした。



子ども達を待ちわびる
校庭のひまわり